

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370773

研究課題名(和文) 西岡虎之助蒐集中世絵画史料コレクションの復元と模写技法の基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research on Nishioka Toranosuke painting collection

研究代表者

海津 一郎(kaizu, ichiro)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：20221864

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：今回の検討によって、東京大学史料編纂所の絵図模写本は71点あり、このうち34点に模写年が明記され、16点には写生師名が記載されていることがわかった。残りの47点を書写技術の観察と模本の仕立て形式によって形態編年すると同時に、西岡虎之助コレクション(126点確認)と比較校合することによって、東大の史料収集・影写模写作業のあり方、西岡の果たした役割・影響が明らかになった。東大の絵画史料は西岡が収集したものではなく、本来近代史学草創の早期において東大自身が収集したものであり、西岡はそれに学ぶことにより西岡民衆史学を確立したのが明らかになった。幾多の「西岡神話」を訂正することができた。

研究成果の概要(英文)：Nishioka Toranosuke is the great figure who wrote the history of common people in Japan for the first time, by using paintings as historical materials. It was known from previous research that his collection of paintings have had an influence on Tokyo University. However, Nishioka did not build his collection by copying pictures that belonged in Tokyo University. Gojo Houzan helped him in copying.

研究分野：日本中世史

キーワード：西岡虎之助 絵画史料 荘園絵図 模写本 影写本 東京大学史料編纂所 圃場整備 西岡コレクショ

1. 研究開始当初の背景

西岡虎之助は、明治・大正・昭和前期の戦前期より、国文学・民俗学・考古学に関心を持ち多様な史料学を開拓した異色の歴史家として著名であり、その民衆史研究が戦後の歴史教育に取り入れられたことは良く知られている。日本における民衆史・社会史の創始者の一人として、史学史的に高い評価を受けている(鹿野政直『思想史論集』7 岩波書店、永原慶二『20世紀日本の歴史学』吉川弘文館など)。その研究基盤としては、東京大学史料編纂所に勤務した37年間(1918-54)の絵画史料蒐集作業がとくに重要視されており、1960年の早稲田大学における「荘園関係絵図展観」が中世史研究のひとつのピークとして高く評価されてきた(前掲2書)。和歌山大学紀州経済史文化史研究所(紀州研)では、大学史の編纂事業との関わりで卒業生である西岡虎之助(在学期間1911-16)の学内関係史料を収集して、和歌山県内における足跡を追求した。東京大学に入学する以前の師範学校や小学校教員時代の和歌山での体験が、西岡史学の形成にとって重要な意義を持っていた可能性があることを指摘した(海津編『西岡虎之助 民衆史学の出発(展示図録)』和歌山大学2010年)。この調査過程において、東京の西岡遺族3家より、西岡虎之助遺品遺稿類の提供をうけて、その中に未発見の写真史料(乾板)や絵図実物史料の含まれることが明らかになった。関係機関と連絡を取り合いながら予察を行った結果、これらは東京大学史料編纂所所蔵の荘園絵図模本群と対を成す史料群であり、西岡蒐集の絵画史料の全体像を見直す必要があることが明らかになった。「**東京大学史料編纂所の絵画史料収集活動に、西岡虎之助はいかに関与していたのか**」という日本近代史学史上の**重要問題**を解明する糸口が見つかったわけである。

2. 研究の目的

日本における民衆史研究の創始者としての西岡虎之助(1895-1970)について、その中世絵画史料コレクションを復元することによって史学史的に再検討する。西岡史学については、早稲田大学の民衆史研究会(会誌『民衆史研究』)に集った研究者を中心にして著作集が編集されて検討されてきた。このほど、和歌山大学に寄託された西岡コレクションの中には、東京大学史料編纂所に寄託された荘園絵図とセットになる未公開史料が含まれていることが明らかになった。本研究ではこのコレクションの全容を把握した上で、とくに中世絵画史料に関するものを集中検討・公開して、中世民衆史研究の新たな地平を切り拓く条件整備を行ないたい。

3. 研究の方法

本研究では大別して2つの調査を平行して行う。一つは、東京大学史料編纂所に寄託されている西岡絵図コレクションの検討で、同所の絵図模写本(影写本)との比較校合を実施して作成年代を確定する作業である。いま一つは、和歌山大学に寄託されている西岡実物史料コレクションの整理であり、この中から荘園絵図・写真史料などの絵画史料をデータベース化する作業を進める。二つの史料群は、もともと西岡虎之助長男の由紀夫氏の一括所蔵品であり(現在長女の金丸典子所蔵)、トータルに分析することによって初めて意義があきらかになるという性格の史料群である。前者の東京での調査・作業は、海津・榎原・高木で実施し、後者の和歌山での作業は海津が専任する。東大での調査には全員が参集して、情報交換を密にして全体の統括は海津が行う。最終年次に映像記録・冊子を公開して広報する。

東京大学史料編纂所の調査

「西岡虎之助蒐集コレクション」の筆写者・年代比定作業(8月・12月合宿調査)黒田日出男氏の作成した「西岡虎之助氏蒐集コレクション目録」によると、東大に寄託された、西岡コレクションの内容は模写絵図126点、絵図原本25点、絵図版本他27点、写真類50点、古文書36点、その他17点から成っており、このうち模写絵図(影写本)をすべて閲覧して調査をとる。すでに予備調査で15点分の校合をすましているため、それぞれについて属性(法量・裏打ち紙の容態・継ぎ目・西岡印の有無・軸装類型)を点検記載する。特に、「西岡印」(ふたつの楕円を交差させて下円に「にしおか」と書いた朱印)は、これまでまったく知られておらず、絵図史料のみに用いられた蔵書印の類である。流出史料の鑑定などにも大きな力を発揮する発見である。

和歌山大学寄託史料の調査

和歌山大学に寄託された西岡コレクションのうち、絵画史料の分を全点撮影の上ですべてデータベース化する。とくに近世絵図実物および写真の紙焼きと乾板については、東大の架蔵する「絵図原本25点」「絵図版本他27点」「写真類50点」の一部の可能性が高いので、総合的に判断する。また、メモ類については、西岡の研究・編纂活動を知る重要な手掛かりになる可能性があるため、できるだけ平行して撮影・分析を実施する。

西岡遺族家の確認調査

1960年の早稲田大学「荘園関係絵図展観」において出展された絵図は、和歌山大学寄託の史料によって100点以上が所在不明になっていることが明らかになった。このうち1点は、西岡詮家に保管されていることが判明したように、一括して遺族のもとに保管されている可能性が高い。当時の展示会場を知る関係者の証言を得ると同時に、遺族家の再調査を行う。これについては、早稲田大学の旧調査についてデータの豊富な高木氏が担当す

る。

以上の3つの調査をすすめるに際して、随時研究代表者の研究室ブログ上において研究成果を発信して、情報提供を呼びかける。
<研究体制について>

西岡虎之助の主要な活躍の舞台である、和歌山時代・東京大学・早稲田大学に即して、それぞれの研究母体に属して民衆史研究を行っている研究者に協力を依頼した。

榎原雅治氏には、東京大学史料編纂所における西岡の研究活動について、高木徳郎氏には早稲田大学の民衆史研究会と西岡遺族について、主に情報提供と調査協力・助言を求める。両氏は、和歌山大学博物館で西岡虎之助展（2010年～11年）を実施した時以来の研究協力者である。

とくに榎原氏は、私（海津）が共同研究員として東大寄託の西岡関係絵図を調査していた2011・12年の同所所長であり、学内史料の所在など研究環境確保に尽力した。

4. 研究成果

総論

今回の検討によって、東京大学史料編纂所の絵図模写本は71点あり、このうち34点に模写年が明記され、16点には写生師名が記載されていることがわかった（次表参照）。史料編纂所絵図模写本の写生師一覧

（氏名）	（作成年）	（採訪先）
1 星野 恒	1886	西大寺
2 護城鳳山	1940-1944	大徳寺・所内
3 菱田忠一	1951	随心院
4 竹犁（竹内理三）	1951	奈良郡山町個人
5 宮本尚彦	1970-92	醍醐寺 東博 個人
6 村岡ゆかり	1991-1995	醍醐寺 中尊寺 佐倉歴博 東大文学部

残りの47点を書写技術の観察と模本の仕立て形式によって形態編年すると同時に、西岡虎之助コレクション（126点確認）と比較校合することによって、東大の史料収集・影写模写作業のあり方、西岡の果たした役割・影響が明らかになった。

予期せぬ和歌山大学附属図書館貴重書庫の虫害発生・閲覧禁止の事態によって、和歌山寄託文書の分析作業は遅滞を余儀なくされて、3年目で撤退をした。研究比重は、史料編纂所（東大附置研）における西岡の役割である。西岡コレクションと編纂所所蔵の模本との相互関係を全体的な視野から分析することにより、幾多の「西岡神話」を訂正することができた。東大の絵画史料は西岡が収集したのではなく、本来近代史学草創の早期において東大自身が収集したものであり、西岡はそれに学ぶことにより西岡民衆史学を確立したのが明らかになった。

各論

以下、西岡コレクションの成立を考えるため、東大模写本群との関係を追究したい。すべての西岡本（126点）を閲覧・精査する必

要があるが、荘園研究の中核となった著名絵図は、39点中にはほぼ含まれている（このことの意味自体も問う必要があるが）。

西岡コレクションの成りたちを論じた先行研究は、黒田日出男代表の史料編纂所共同研究が唯一の者であろう。重複する荘園絵図を検討したグループは、科研報告書で次のように指摘している。

「44点のうちの半数を越える24点の西岡本が、史料本よりの複模本だったのである。それらは史料本に付された模写年代や模写者の記載まで忠実に写し取っており、西岡氏が在職中にひき写させたことを物語っている。私は、西岡本と東大本との重複絵図を39点しか確認・閲覧できておらず、44点とする東大科研の母数が判然としない。この24点のうち、近江下八木村（保110）、宇治山科（仁104）、毛越寺（保42）は東大影写本絵図一覧表に欠落しているように、他にも私の見落とししている東大模写本が架蔵されているのかもしれない。いま、確認された39点について、閲覧確認して校合するという作業の観察記録を記したい。

西岡荘園絵図コレクションは、裏打ち紙のない極薄い大きな紙をあらかじめ貼りついた状態の料紙が一般である。2割ほどには独特のダルマ型の朱印「にしお可」が捺されており、大半は初な状態で折本か巻紙かで伝来する。一部は裏打ちの上で掛け軸装されているが安手の上に技術がなく、保存状態が劣悪である（表具欄の掛軸装4点）。典型的なものとして、西岡目録番号のN092の瓜二つの模本（おそらく同時に2枚作成か）の西岡詮氏所蔵「井上本荘絵図」をご覧いただきたい。この料紙は、N028に「瑞龍紙 茨城製紙株式会社」と朱字印刷された和紙が使用されている（茨城県常陸太田市瑞龍町は「ひるくながい」土師器を出土した瑞龍遺跡などで著名の地だが後考を俟つ）。東大影写本（模本）や、東大図書館・帝室博物館など先行所蔵の機関の持つ模本が、筆写した料紙を後に繋いだのに対し（結果的に接合面にズレのある模写になる）、西岡本の方はあらかじめ接合した大きな薄い紙で写したため、このようなズレはみられない。したがって、西岡コレクションは、黒田日出男科研研究グループの指摘通り、特定の時期に一齐に筆写作業を行った「模本」とみて大過ないであろう。早稲田大で西岡に学んだ恩師佐藤和彦氏より聴聞していた「影写本作成時に私財を投じて複数作成した」の巷説類は、文書の原状を見るかぎり再検討の余地が残るだろう。

西岡コレクション中に、東大本の影写記録表記や表題を忠実に模した貼り紙類がみられることは、黒田科研の先行研究が指摘するとおりである。これらを勘案して、東大本の複製と判断したものは判定欄にAとした。Bは一部確証の無い点があるが概ね同様とおもわれるもの。Cは同時作成の可能性が残るもの。Dは東大本とは無関係に影写作業が行

われたと判断されるもの。たとえば、東大本には多くの書洩らしがあるが、西岡本ではより正確・詳細に記された No89 など。逆に西岡本に著しく劣る写生がある例は多い。東大本にはデータがない、裏打ち紙の大きさを線画している No80 も、少なくとも東大本の複製からだけでは作れない。こうした観察の主要なものは備考に略記した。

また、在職中の西岡が、所内に於いて模写本を作っているとすると、当然その作成時期と作成者が問題となる。先行研究でこれに言及したものは管見の限り皆無である。「抵抗の歴史家」「民衆史研究の始祖」とまでいわれた史学史上に不動の位置を占める西岡にしてなおこの有様である。絵画史料研究や地域史研究をめぐる問題意識の貧困さを自覚すべき時であろう。西岡が在職中に作られた東大模写本の中で、同時作成の可能性の高いものが、No95・96・117 の小宅荘と伊作日置北郷である。この3点はいずれも1940年代に書写生護城鳳山の模写した絵図であり（表具の仕方を除くなら）、ほとんど瓜二つの模写本と言える。東大本は裏打ちをして表紙・裏表紙をつけて折本にする処理がなされ、西岡本は一紙のうぶのままで軸なしの巻物にして簡易箱で保管した。日置北郷絵図は、東大本は1944年の模写だが、西岡本の方には1952年の新聞紙が軸に入れられていた。あるいは、両者は同時に作られたのではなく、少しの時間差があるのかもしれない（もちろん箱装にする時の年代の可能性もある）。小宅荘絵図では、東大本の貼り紙に「『十九坪』八補筆 谷」とあるものが、西岡本では「十九坪八補筆」と書かれている。このことは、護城の写した原本の欠落を谷なる所員（影写生）が後に補い、それを西岡が写したことを示す。西岡は、模写本の作成時に2本目を作らせたわけではなく、敗戦後になって模写作業を行なったのだろうか。この場合は竹内理三の模写、弥永貞三の補正の本を1951年以後に写したことの明記されたNo87と同ケースとなる。ただし、1952年は西岡が東大史料編纂所を辞める2年前である。西岡は、この護城なる影写生と組んで模写本を作成し、かつそのついでに東大本の模写をおこなったのであろうか。西岡の探訪記録や閲覧記録を精査する必要がある。

西岡コレクションの成立期については、今のところ1940年から1952年にかけてを推測しておきたい（先行研究の指摘する「古書店から購入したことのわかる数点」は私は気づかなかった）。

結論

西岡虎之助の研究活動を支えていた書写生が護城恵満（鳳山）である可能性が高まった。さすれば、両者の出張記録類を点検することで、交流の一端が浮き上がることが期待される。予察として、『史料編纂所100年史』の職員録の欄より拾うと、以下ようになる。記録に残っている1921年度（大正10）西

岡と護城とは史料編纂補助嘱託の校正部と謄写部の筆頭に位置しており、伊藤喜字が史料編纂係雇の謄写部である。補助嘱託と係雇の違いとは、前者が影写本制作など重い仕事を担当するのに対して、後者は簡易な謄写のみであったと思われる。その後、敗戦まで西岡は6編部を経て2編部の編纂官に上り、護城と伊藤と1926年（昭和1）登場の菱田忠一と3名の「技手図書部」が並び、敗戦年には菱田ただ一人になって、1963年まで勤めた（宮本尚彦と交代）。戦前戦中を通じて西岡コレクションの形成に関わりの深い技師・書写生が居るとすれば、それは護城をおいて他には想定できないであろう。

いま、作業途中で稿を閉じるにあたり、私は西岡自身が模写本を作っていると可能性を考えていることを告白しよう。隠されているが、師範学校で2年あまり教鞭をとっていた西岡の画力は半端なものではない。その謎については、歴史探訪DVDを作成して検証した。No87の猪名絵図を竹内理三が作成した旨、高橋敏子氏からご教示を得たとき、私の「期待」は確信に移った。

ツールに依存した私たちとは違い、昔の研究者は実に芸能人だったのである。

本研究により予想される影響

日本の近代史学における社会史研究、とくに中世絵画史料研究の蓄積は、世界的にも注目されている。この意義を考える上でも、近代日本の国家的な研究機関の中核であった東京帝国大学の附置研（史料編纂掛）における荘園絵図影写本の成立を考えることは重要な手掛かりに違いない。西岡虎之助の新出コレクションはこの作業を可能にする研究基盤である。模写本の比較校合という地味な基礎研究であるが、中世史分野における意義にとどまらず、日本の近代史学の確立過程を考える上で史学史的な意義が認められる。

今回の研究により、「東大における絵画史料の収集活動を西岡虎之助が推進した」という事実は「神話」の類であり、西岡の調査活動は限定的であって史料編纂所の絵画史料収集方針を規定していないことが明らかになった。つまり西岡の業績によって代位されがちな絵画史料論の蓄積が、19世紀のアカデミズム歴史学の内部で準備されていたことになる。その源流を史学史的に確定する作業が不可欠になる。従来画像史料に関する研究蓄積を前進させる契機になるであろう。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

海津一朗「フィールドミュージアムかせだ荘構想」『和歌山大学教育学部紀要・人文科学』67 2017 査読有

海津一朗「西岡虎之助の荘園研究とかせだ

莊」『紀伊国笠田荘と文覚井』和歌山県立博物館、2013 査読有

〔学会発表〕(計1件)

海津一郎 「『元寇・倭寇・日本国王』をめぐる批判に答える」日本史史料研究会例会 2017・1・7 葛飾区公民館

〔図書〕(計3件)

海津一郎編『西岡虎之助神話 故郷と絵図よみがえる天野』和歌山大学日本史研究室 2017 全120頁

海津一郎・吉村旭輝著『西岡虎之助 民衆史の出発』和歌山大学日本史研究室 2016 全44頁

海津一郎編『中世都市根来寺と紀州惣国』同成社(中世史選書13)2013 全360頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

海津一郎監修ビデオライブラリー映像

○大学サーバーからの研究成果発信

秀吉の太田城水攻め

<https://www.facebook.com/kishuken/videos/1661173444183718/>

太田城慰霊祭 2017 歴史演劇映像

http://lms.center.wakayama-u.ac.jp/moodle/stream/streamview.php?mid=CP_1f69ec86e7df7b4f42776f243a170531

YouTubeからの研究成果発信

西岡虎之助、紀南への旅・予告編

<https://www.youtube.com/watch?v=Hm8sLy4zRP4&feature=youtu.be>

刊行映像

和歌山大学歴史探訪記録映画

海津一郎監修「西岡虎之助、紀南への旅-民衆史研究のはじまりを告げる一枚の絵-」

(DVD版100枚プレス配布)

6. 研究組織

(1)研究代表者 海津一郎 (KAIZU.Ichiro)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：20221864

(2)研究分担者 榎原雅治 (EBARA.Masaharu)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：40160379

(3)連携研究者 高木徳郎 (TAKAGI.Tokurou)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授

研究者番号：00318734

(4)研究協力者 今井 修 (IMAI.Osamu)

(早稲田高等学院)